

【 8 】

氏名	河地貫一 かわちかんいち
学位の種類	文学博士
学位記番号	論文博第44号
学位授与の日付	昭和44年5月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	離島地理学

論文調査委員 (主査) 教授 織田武雄 教授 小葉田 淳 教授 池田義祐

論文内容の要旨

地理的概念としては、島嶼とは本土から海によって離隔された、面積の比較的狭少な土地をいうのであるが、今日、「離島の後進性を除去する」目的から、離島振興法が制定されているように、島嶼すなわち離島は、その地理的位置の隔絶性のために、一般に孤立性の強い後進的な地域とみなされている。しかし著者は、離島の持つこのような孤立性は、それぞれの島嶼の生産様式の発展段階に応じて時代的に異なることを、対馬・五島列島を中心とする北九州諸島および瀬戸内海諸島における多年の調査に基づいて論じている。

すなわち本論文の第一～三章において、著者は離島の孤立性の問題を、島嶼と本土間との人口・商品・資本の移動を通じて考察している。これを要約すれば、江戸時代には陸上交通よりも沿岸航路の発達によって、島嶼は帆船航路の寄港地として栄え、島嶼の漁業も、とくに捕鯨業や大型網漁業の発達によって繁栄し、したがって江戸時代から明治の初期にかけては、むしろ本土から島嶼への人口の流入によって、人口の増加をみた島嶼も少くなかった。これに対して、明治以降のわが国の資本主義経済の発達に伴って、帆船時代は終焉し、かえって島嶼の孤立性は高められるようになった。また本土における資本性漁業の発展によって、島嶼の漁業も零細な沿岸漁業に零落し、農業もまた、元来土地生産性に乏しい島嶼では、離島化による市場条件の喪失によって、孤立性の強い自給的農業に停滞せざるを得なかった。

このように第二次大戦前までは、石炭資源に恵まれた若干の島嶼を除けば、わが国の沿岸島嶼の開発は、一般に著しく後進的な状態に止っていたが、戦後の経済の高度成長や交通の発達によって離島の孤立性は弱められ、また離島振興法の制定によって、島嶼の開発も次第に進められている。しかし他方、大都市を中心とする資本や工業の過度の集中と集積によって、離島の孤立性の喪失は、島嶼から本土への人口の流出をますますまねき、離島が典型的ないわゆる過疎地帯化しつつあることも事実である。

また第四章では、島嶼が今日なお「離島」とよばれ、孤立性の強い地域とみられるのは、対馬の本戸制戸にうかがわれるように、島嶼における社会構造には、なお前近代的な要素が強く残存し、それが島嶼地

域の社会、経済の近代化にとって、著しい障害となっていることを著者は指摘している。

論文審査の結果の要旨

島嶼の地理学的研究は、わが国ではとくに必要であるにも拘らず、若干の島嶼についての地誌学的研究を除けば、殆んどみられなかった。したがって著者が、北九州および瀬戸内海における現地調査の資料に基づき、とくに島嶼の孤立性の問題を、人口・商品・資本の移動の面から詳細に追求し、いくつかの注目すべき見解を示した努力はまことに多とされるべきである。ただ本論文が、独立した論文の集成であるため、記述に重複した個所があり、また人口の移動と商品・資本の移動との関連的説明にやや欠けるところがみられるが、わが国の地理学の研究において、これまで閑却されていた問題を採りあげ、貴重な成果を挙げたことは、学界に貢献するところ甚大であるといえる。

なお副論文「賃金と地域とに関する経済地理的法則」および「新大陸の農業革命」も、著者の経済地理学についての深い学識を示すものである。

よって本論文は文学博士の学位論文として価値あるものと認める。